

2017年7月～2023年3月までに当院にてがん治療を受けられた方で、 免疫チェックポイント阻害薬治療を行なった方へ

課題名：免疫チェックポイント阻害薬使用による腎障害の実態

1. 研究の対象

2017年7月～2023年3月までに当院にてがん治療のために免疫チェックポイント阻害薬治療を行った方を対象としています。

＜免疫チェックポイント阻害薬とは＞

がん細胞はリンパ球などの免疫細胞の攻撃を逃れて生き延びて増えていきますが、免疫チェックポイント阻害薬は、この仕組みを解除して、がん細胞に対する免疫を活性化・持続させ、がん細胞を消失させる今までの抗がん薬とは違うメカニズムの薬剤です。

ニボルマブ（オプジーボ®）、ペムブロリズマブ（キイトルーダ®）、イピリムマブ（ヤーボイ®）、デュルバルマブ（イミフィンジ®）、アテゾリズマブ（テセントリク®）、アベルマブ（バベンチオ®）が該当します。

2. 研究目的・方法

従来からシスプラチンなど抗がん剤治療薬による薬剤性腎障害が問題となっており、「がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン」が作成されております。昨今、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など新たな抗がん薬が開発されており、高齢者にも使用されるようになってはいますが、その使用実態については明らかになっていない部分が多くあります。

近年、免疫チェックポイント阻害薬の使用が増え、急性腎障害の有害事象の注意喚起の報告が散見されるようになってはいます。高齢者は成人より急性腎障害（AKI）を生じやすいことが知られており、加齢腎のために通常においても腎機能が低下している状態にあることから、本研究では、免疫チェックポイント阻害薬が高齢者の腎機能に与える影響について調査させていただきます。

3. 研究に用いる情報

皆様のカルテ情報から、患者背景（年齢、性別、家族構成、生活習慣身長、体重、血圧、原疾患、内服薬など）、問診票の内容、臨床検査（採血検査、尿検査など）、転帰などの情報を調査させていただきます。

本研究のために血液や尿などの試料を頂くことはありません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

東京都板橋区栄町 35 番 2 号

電話：03-3964-1141FAX：03-3964-1982

E-Mail: takashi_takei@tmghig.jp

研究責任者：東京都健康長寿医療センター 腎臓内科・透析科部長 武井 卓